

令和元年度 静岡大成中学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	ご意見
① 人権尊重の立場に立った教育の実践	一人一人の存在や思いが大切にされる環境づくり	生徒の主体的活動を支援しつつ、生徒間の穏やかな人間関係作り、思いやり、助け合うことの大切さを養う。	A	様々な学校行事に限らず、普段の生徒会活動においても生徒主体の活動を行うことができた	A	・中学生は、成長段階にあり、心の中の葛藤が大きく保護者や教員の思い通りにはならないケースが多い。うまく表現できないだけで、生徒なりにいろいろな考えを持っている。引き続き生徒への声掛けや保護者との密接な連携を取ってほしい。
	安心して過ごせる学校・教室づくり いじめ防止の徹底	明るい雰囲気づくりを心がけるとともに、掲示物や書き込みにも注意し、いじめにつながる要因を見逃さない。	A	教室や身の回りの環境美化に重点を置いて指導した。いじめ防止も早期の発見・対応が実践できた。		
	研修を深め、道徳授業の充実を図る	公平な授業評価に繋げるために、一人一人の生徒の行動やものの考え方の観察を深める。	A	綿密な指導計画を立て、その計画に基づき滞りなく授業を展開した。生徒の取り組みも良好であった。		
② 「わかる授業」「楽しい授業」「身につく授業」の実践	基礎的・基本的な学習内容の定着を意識し「わかる授業」「楽しい授業」「身につく授業」の工夫を図る	「分からなければ楽しくない、楽しくなければ身につかない」を意識して、授業の工夫改善に取り組む。	A	ただ教科書の内容をそのまま学習するのではなく、各教科担当が授業の進め方や学習教材を工夫し、「わかる授業」を実践できた。	A	・中学生は、生徒の反応が大きいため、高校生よりも授業に活気がある。 ・ICTの活用という面では、教室のモニターがプロジェクターに比べて小さいため、中学の教室にもプロジェクターを導入したい。
	多様な生徒に対応するために自己研鑽に励み、指導法や授業形態の改善をし、学習支援や進路支援につなげる	学業不振者の支援とともに学力の高い生徒の支援も心がけ、満足度の高い授業を工夫し、進路指導の充実を図る	B	能力別クラス編成をすることで、学力の底上げをすることができた。次年度は、学力の高い生徒をさらに伸ばす指導を強化したい		
	ALやICT機器、その他の教材を活用し、主体的・対話的で深い学びに繋がる21世紀型授業に積極的に取り組む	ALやICT機器を活用し、双方向を意識した授業に取り組み、学習内容を深め学習意欲の向上に努める。	A	プロジェクターを使った授業をおこなう中で、生徒同士の話し合いや教え合いといったアクティブラーニングが実践できた。		
	教科・学年間の連絡を密に取り、教務内規に従った業務を遂行する	教務内規に沿った指導、教科間・学年間での評価の平等性を徹底する。また、評価方法にミスが無いように細心の注意を払う。	A	教務内規に沿った業務遂行はもちろん、教員間で常に声を掛け合いながら業務を進めることができた。		
	朝学習・1Pノート・級別テストの充実を図り学習意欲を育て、確かな学力へ繋げる	満足感や充実感の持てる指導を工夫して、基礎学力の定着、学習習慣の確立、自学自習力を養う。	B	朝学習や1Pノートでは各種検定合格に向けた演習問題に取り組みせ、生徒の学習意欲を高めた。		
③ 生徒理解を基盤としたきめ細やかな生徒指導の実践	基本的な生活習慣及び規律ある生活態度を養う(挨拶の励行・時間厳守・端正な身なり)	場に応じた挨拶や対応、品位ある服装や立ち振る舞いを心がけることのできる生徒を育てる。	A	特にあいさつの励行や正しい言葉遣いを重点的に指導し、服装容儀のだらしない男子生徒にもその場で注意し直させた。	A	・SNS、LINE、ゲーム、スマホのやりすぎで昼夜逆転が起こり、不登校に至ったケースがあった。自分の時間を自分で管理する訓練をする必要がある。
	交通安全を心掛け、登校時のマナーや事故防止を徹底させる。	登下校時の交通マナー、歩行者や周囲の人々に迷惑をかけない思いやりを持った生徒を育てる。	A	ほぼ毎日の集団下校の中で、交通安全はもとより、交通マナーについても指導し徹底した。		
	授業規律を整え、落ち着いたけじめのある学びの環境を作る。	落ち着いたけじめのある学びの環境を整える。チャイムで始まる授業、ロッカー・机上・身の回りの整理整頓などに注意を払う。	A	5分前行動を主とした時間への意識は全校生徒に定着しつつある。整理整頓を苦手とする一部の男子生徒の指導に苦慮した。		
	SNSやLINEなどを利用した情報伝達方法のマナー指導の徹底	スマホ依存の防止や情報伝達時のマナー指導を心掛けいじめや不登校、学業不振につながらない早めの指導を心がける。	A	生徒や保護者を対象にしたスマホ安全教室の甲斐もあってか、SNSなどによるトラブルは大幅に減少した。		
	行事や部活動などを通じて、主体性を養い多様性を受け止め、協調性やコミュニケーション力豊かな生徒を育てる。	心技体のバランスの取れた生徒の育成を心掛け、生徒とのコミュニケーションを密にして、主体性を育てる。	B	主体性・協調性を養う中で小さなトラブルは日々発生していたが、それを解決することでコミュニケーション能力が身についてきたと感じている。		

【評価の基準】 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	ご意見
④ きめ細かな進路指導の実践	第一学年は自己の適性或将来への希望を生かした進路を目指し、計画的な学習の取り組みを定着させる	生徒の個性や適性を生かした進路目標を設定させ、実現に向けた具体的な取り組みを支援する。	B	「職業調べ」をする中で、将来の夢に向けた個々の道しるべをデザインすることができた。	B	・今年度は例年に比べて公立高校受験者に不合格者が多かった。全員合格を目指したい。
	第二学年は目標達成のための学力の充実と共に保護者に的確な進路情報を与える	新しい情報を提供するだけでなく、生徒自らも積極的に資料集めに組みませ、進路実現へつなげる。	B	「高校調べ」をする中で、各校の特徴を知り、夢の実現に向けた志望校の選択肢を絞ることができた。		
	第三学年は目標達成のため、最大限の能力を発揮させ、進路実現・自己実現を図る	十分な面接や指導を繰り返す中で、親子ともども納得できる進路決定を目指す	B	生徒の適性或外部模試の結果をもとに、三者面談を繰り返しながら進路を決定することができた。		
	難関公立高校合格率に繋がるスリーライトクラスの充実を図る	難関高校合格に繋がるスリーライトクラスとなるよう学習面のみならず生活面の支援を心掛ける。	B	スリーライトクラスを始めてから16年経った。生徒数の増加や生徒の多様化により、システムの改革の必要性を感じ、今後の在り方について検討した。		
⑤ 時代の進展に対応した教育内容の実践	校内外の研修会・研究授業等に意欲的に取り組み、ICT機器やデジタル教材を積極的に利用した新しい時代の教育を目指す	研究授業・公開授業や外部研修に参加し、得られた情報を共有し、教員の指導力の向上、授業力強化に繋げる。	B	公立及び私学の教育研修会に参加し、効果が期待できる取り組みは本校でも積極的に導入した。	B	・タブレットの授業は、実証結果が出ていないので懐疑的である。 ・ホームステイの希望者は、高校生よりも中学生の方が多い。引き続き、いろいろな形で国際理解教育に取り組んでほしい。
	社会変化に伴う教育の変化を受け止め、新たな学習課題に向けての検討を教科内で進める	情報の急速な発展の中で、新教育課程を見据えた授業展開と共に時代に即した本校独自のICT教育を検討し指導に生かす。	B	プロジェクターを使っただけでなく、タブレットを使ったプレゼンなど、ICTを能動的に活用することができた。		
	国際理解教育を進めるため、あらゆる教育活動の中において、グローバルな視点に立って物考える生徒の育成に努める	ホームステイや留学生との交流など異文化を体験できる機会をとらえ、多様なものの見方考え方のできる視野の広い生徒を育てる。	B	ホームステイへの参加希望者は4名いたが中高全体で数が足りず実施されなかった。スカイプによるオーストラリアの小学生との交流を実施した。		
⑥ 家庭・地域に信頼される開かれた学校づくりへの取り組み	ホームページやきずなネットなどを利用し、学校と家庭をつなぐ情報を積極的かつ効果的に配信し、本校への理解を深める	広報活動は全職員で取り組み、本校の魅力をホームページなどで広く発信する。受験者やその保護者の対応には特に注意を払う。	A	部活の大会結果や学校行事の様子などを、HP上でタイムリーに発信することができた。	A	・ホームページやきずなネットを利用するなど、保護者とはこまめに連絡を取っている。 ・バレー大会などは中学の保護者の出席率が高い。 ・引き続き、地域交流活動を通じて地域の方々の本校理解に繋げてほしい。
	PTA行事・地域交流・学習会などに参加し、保護者や地域の人々の本校理解に繋げる	保護者や地域の方々とのつながりをスムーズにして、教育方針の理解をより深める。	A	奉仕作業を中心とした地域交流事業を全校生徒及び各部活で実施することができた。		
⑦ 安心安全な教育環境の整備と安全教育の充実	施設設備や防災器具の定期的な点検を実施し、安心して過ごせる環境作りに励む	生徒の安全を常に意識し、設備や防災器具定期的点検を行い、事故のない環境づくりを徹底する。	B	年3回の定期点検だけでなく、日常的に設備備品のチェックを行い、不備についてはすぐに対応した。	A	・ドアを壊す、壁に穴をあけるなどの行為は中学生が目立つ。賑やかなのが当たり前の年ごろであるが、安全教育はしっかり行ってほしい。
	地震や災害時を含めた危機対応の体制を理解し、効果的な訓練を通し、安心安全を高める	災害時だけでなく常に安全を意識した環境づくりを心掛ける。非常時に適確な行動がとれるよう実際に即した避難訓練に取り組む。	A	天候にも恵まれ、年3回の防災訓練を滞りなく実施した。生徒の避難行動もとても良好であった。		
⑧ 働き方改革の趣旨を理解し、教育力の充実と向上を目指す	勤務時間を意識し、短い時間で教育目標を達成し成果を上げる取り組みを進める	教育の質の向上を目指し、生徒や家庭の視点に立ち、仕事のやり方や見直しを図り、勤務時間の効果的配分に取り組む。	B	タイムカードの導入により、働き方改革に対する教員の意識は高まった。次年度は、効率的な勤務を体現していきたい。	B	・クラス数が増えてスターライトクラス担当教員の負担が増えているため、今後の改善課題となっている。

【評価の基準】 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった